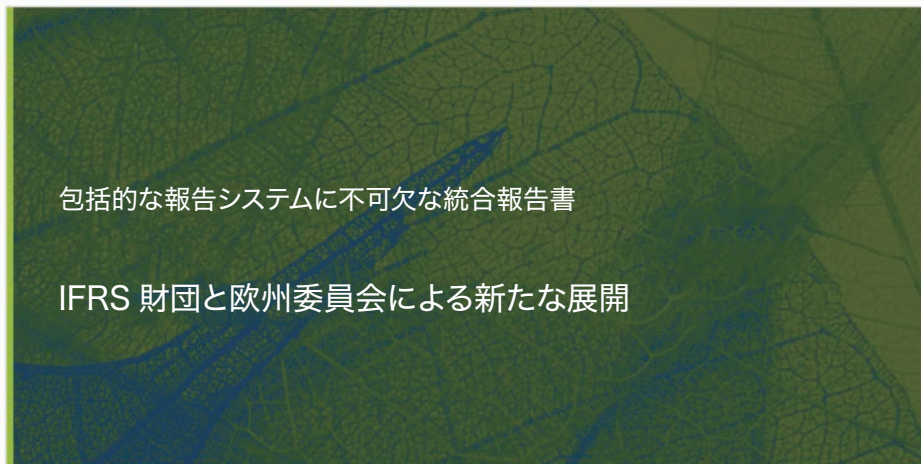




2021年を迎え、私たちが目指すものは明白です。それは全体的かつ包括的な企業報告システムの推進、および統合思考と統合報告のグローバルな普及です。今号では、こうした目標に向けた最新の活動情報を皆さまとシェアさせていただきます。



包括的で全体的、かつグローバルな開示システムの構築に向けた機運が高まっています。サステナビリティ報告について [IFRS 財団が示した戦略的方向性](#) に関する発表内容、および EFRAG (European Financial Reporting Advisory Group) が発行した最終報告書は、報告のコンバージェンス (収斂) と一貫性に対する要求の高まりを示す最新の動きです。いずれも統合報告が果たすべき重要な役割を特定しています。

IIRC は報告が持続可能な発展および事業の成功を促進していくうえで、包括的な戦略とビジネスモデルを通じて、財務とその他の価値の主要な原動力との相互依存関係を伝える、価値創造チェーン全体の情報の連結性が重要であることを明確にしています。IIRC では、EFRAG および IFRS 財団とのあらゆるやり取

標準化に向けて：
先頃開催された
[O.I.B.R.\(Organismo Italiano Business Reporting\)](#)
のイベントでシェアされたさまざまな意見を、IFRS 財団、欧州委員会、IIRC、SASB などから聞く

[Philip Morris International Inc.](#)
初となる統合報告の作成

より有意義で簡潔な統合報告の作成に必要な
[6つの重点分野とは](#)

りを通じて、この点を主張し続けます。

IFRS 財団

3月8日、IFRS 財団トラスティーは、[IOSCO \(証券監督者国際機構\) 理事会の支持表明](#)を受け、新団体 Sustainability Standard Board の設立決定を公表しました。2020年に開催した正式な協議を通じ、市場からの広範な支持が表明された後、この声明に至りました。

IFRS 財団は企業の価値創造に焦点をあてたサステナビリティ関連情報を網羅できるように、財団の任務の範囲拡大を含む最終プランを11月のCOP26に先立ち策定します。同プランには以下の内容が含まれるとIFRSは発表しました。

- 企業価値に関する投資家の視点
- 気候問題を優先するサステナビリティの範囲
- 既存の各種フレームワークの利用
- ビルディング・ブロック・アプローチ

主要法域地域における基準策定者との協力を通じて新理事会が発行する新基準は、グローバル規模で一貫性のある比較可能な報告のベースラインを提供するばかりでなく、サステナビリティに関するより広範な影響を把握するための報告要件を調整する柔軟性を提供します。

その後、IFRS 財団は3月22日、世界各地のサステナビリティ報告基準のコンバージェンスを加速し、テクニカルな専門知識の提供を任務とする新たなワーキンググループにIIRCを任命しました。同ワーキンググループは、IASB(国際会計基準審議会)、IOSCO(証券監督者国際機構、オブザーバー)、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)、Value Reporting Foundation(IIRC、SASBによる合併組織)、CDSB(気候変動開示基準委員会)、およびWEF(世界経済フォーラム)の6団体から構成され、CDPおよびGRI(グローバル・レポートニング・イニシアチブ)とも緊密に連携してまいります。

EFRAG

こうしたさまざまな展開と並行して、EFRAGはEUのサステナビリティ開示の進展に関する各種レポートを欧州委員会に向け発行しました。

EFRAGは、統合報告の重要性を認識し、次のような声明を出しています。「企業報告におけるすべての側面は、統合的アプローチのもとで相互に関連してい

[投資家による](#)

[支援表明](#)

アセットマネジメント

Oneは、

国際的な投資会社

24社とともに、

統合報告をサポート

します。

統合報告に関する

[よくある質問](#)

への回答

る必要があります。サステナビリティ報告を財務報告と同等に扱うことが最も重要であるとされ、統合報告の各種原則を適用し、2つの報告の適切な連結を築く必要があります。」

最初のレポートでは、EUにおけるサステナビリティ基準の設定に関して、原則主義かつステークホルダーに対して包含的なアプローチである54の提案事項を記載しています。グローバル規模の堅牢な企業報告に向け、既存の発展途上にある諸団体と連携し、EUにおける基準構築に向けたロードマップと構造設計をこれらの提案事項は強調しています。

情報結合性の重要さは同レポートのすみずみに深く浸透しており、EU基準設定のガイドラインにおける6つの重要概念のひとつとして強調されています。

2つめのレポートでは、EUのサステナビリティ基準を策定する際のEFRAGのデュー・プロセス、およびガバナンス構造に求められるさまざまな改革要件について概説しています。

EFRAGはビルディング・ブロック・アプローチの必要性や、既存のさまざまなイニシアチブのコンバージェンスや協力の重要性を述べた上で、コンバージェンスに向けて開始したCDP、CDSB、GRI、IIRC、SASBの取組みについて言及しています。

報告のためのグローバルな調整に重点を置き、EUやグローバルなイニシアチブ間の統一性と一貫性の促進をIIRCは支援しています。レポートで概説されているビルディング・ブロック・アプローチを採用し、現在のグローバルイニシアチブの専門知識を活用することで、気候変動にともなう喫緊の問題に手堅く効率的に対応し、グローバルな普及促進につながるはずです。

こうしたさまざまな進展について、IIRCのCEO、Charles Tilleyは次のようにコメントしています。「長期的な価値創造の支援に向け、エビデンスベースで市場情報に基づく透明性の高いデータを提供する、包括的な企業報告システムへの喫緊の必要性にIFRS財団とEFRAGは対応してきました。両団体は国際統合報告評議会(IIRC)の活動の重要性を認識しており、私たちは包括的な報告システムの発展について両団体と緊密に協力していくことを楽しみにしています。」

The Value Reporting Foundation

INTEGRATED
REPORTING <IR>



読者の皆さまへのご案内:

統合報告フレームワークおよび SASB の今後の連携の可能性についての詳細をご覧ください。

今年の4月、SASBのCEO、Janine Guillot氏とIIRCのCEO、Charles Tilleyが主催するウェビナーにご参加ください。「国際統合報告フレームワーク」とSASBスタンダードの併用によって、比較可能性と一貫性に優れた信頼度の高い情報を求める投資家のニーズを満たしつつ、長期的な企業価値創造のより完成された姿をご実感いただけます。

[最近のブログで言及したように](#)、IIRCとSASBの両組織をValue Reporting Foundationに統合する計画が進行中ですが、その計画を突き動かしているのは、企業が価値を創出するために用いる多様なリソースや関係性を報告可能にすることです。

SASBスタンダードが同業各社のサステナビリティ関連データを横断的に相互比較可能なものとするのに対し、「統合報告フレームワーク」は、価値創造プロセスの全体像を示します。

このウェビナーでは、「統合報告フレームワーク」とSASBスタンダードを併用することで、堅牢かつ効果的な報告を推進する方法を示します。ウェビナーでは、これらをすでに採用している企業から、併用の具体的な方法やその結果としてどのような利点や課題が生じたかについて、貴重な経験談を聞くことができます。また、SASBスタンダードによって改善した統合報告書が、投資家に与えた補足的メリットに関して投資家の意見を聞くこともできます。

本日まで登録ください。

- [4月27日火曜日: 16:00 \(中央ヨーロッパ標準時間\) / 15:00 \(英国夏時間\) / 07:00 \(太平洋標準時間\)](#)
- [4月28日水曜日: 08:00 \(シンガポール時間\) / 09:00 \(日本標準時間\) / 10:00 \(オーストラリア東部標準時間\)](#)

統合報告の保証促進へのロードマップ

Kevin Dancey 氏 (IFAC CEO)、Charles Tilley (IIRC CEO)

IIRC の CEO、Charles Tilley と IFAC の CEO、Kevin Dancey 氏が、 統合報告の保証促進のためのロードマップを策定

2010 年に IFAC の支援を受けて IIRC を設立して以来、統合報告書を使用して価値創造のストーリーを伝える企業・組織の数が増え、現在では 70 を超える国々において、2,500 超の組織が統合報告を実施しています。これは目覚ましい進歩ですが、統合報告への信頼性をさらに高めるためには、法域ごとに横断的に、より迅速で一貫性のある方法で統合報告の信頼構築を進める必要があると考えています。

統合報告の保証強化をさらにペースアップするためには、企業のあらゆる重要な要素（パーパス、戦略、リスクと機会、各種リソースや多様な関係性、価値創造プロセス、およびそのプロセスにおいてさまざまな資本を使用する際の競争上の優位性）を網羅する価値創造に、広範かつ前向きに焦点を当てる、保証強化に向けた新たな思考が必要となります。

そうした思考を率先して広めるために、IFAC と IIRC では、企業・組織、監査人などに向け、統合報告の保証にどのような要素が含まれるのかを明確にすることを目的として、2021 年 3 月に「公益性の高い統合報告の保証促進」というビジョンを策定しました。

統合報告と保証という世界はまだ未成熟な部分があり、ガイダンスと実践をさらに進化させる必要があります。定性的な情報や将来の見通しに関する情報、自ら選択したパフォーマンス指標が重視されるようになると、主に過去の保証アプローチに基づいたソリューションでは十分ではありません。

我々は統合報告の保証が急速に発展するためには、継続的な関連性と信頼性のための革新が企業と監査人に必要だと考えています。また、特に統合報告とその有効性に関して、保証システムが成熟するにつれ、利用者は現実的な想定をする必要があります。

SASB や GRI スタンドアードのもとで選択されたサステナビリティ指標のような、統合報告書の構成要素に対し限定的に保証を行った多くの事例に見られるように、統合報告書の保証に関してはこれまで段階的な発展を遂げてきました。経営陣が適用する統合報告基準（例：「統合報告フレームワーク」など）に沿って作成された統合報告書に対する限定的な保証が、7つの企業で確認されています。

長期的な価値創造と持続可能な発展を目指す道のひとつとして、統合報告を実施する企業の数が増えるにつれ、そうした報告書に対する保証サービスの需要も高まるはずですが、需給両面の論点があります。

需要面では、組織は統合の保証に含まれる内容を理解し、事業上のメリットを確認する必要があります。取締役会や監査委員会、そして経営責任者がこれに直面します。ABN AMRO のような統合報告の保証にすでに取り組んでいる企業がその恩恵を実感しています。ABN AMRO の Global Head of Advisory, Reporting & Engagement である Tjeerd Krumpelman 氏は以下のように述べています。「当社では数年前、2017年統合報告書の全ページに対し、財務諸表の監査法人である EY から保証を取得することにしました。私たちはこの点において先駆者であり、他のすべての統合報告者にも同様の実施を勧めています。このようなプロセスを踏むことで報告書の信用性が向上し、ステークホルダーの信頼が高まったばかりでなく、報告とそのプロセスの改善に向けたさまざまな推奨事項も手に入れることができたと思っています。次のステップとして、統合報告書の一部についての限定保証から合理的保証へと移行し、人権報告書などその他の非財務情報についても保証を得ることにしました。これはそのように実施することが当社の事業に適しているからです。」

組織や投資家にとっては、統合報告書の保証がもたらす貢献を理解・評価することが重要であり、特に限定的保証と合理的保証という2つの主要な保証タイプの違いや、合理的な統合報告書の保証を実現するために監査人や組織に求められることを理解することが重要であると考えています。

統合報告書の合理的保証への移行としては、企業・組織、投資家、およびその他のステークホルダーに向けて、より価値の高い保証活動を徐々に提供していくべきと信じています。この動きは、統合報告書と根本的な事業慣行の質的向上につながり、財務諸表とより広範なナラティブ情報との結合性強化に貢献するはずです。

供給面では、会計監査人のステップアップが求められます。会計監査人は、保証のスキルセット、会計監査の経験、専門家としての懐疑的視点と判断力が

あれば、高品質な統合報告保証を提供できる立場にあります。会計監査人は、専門的なトレーニングと経験を通じて、あらゆる種類および規模の、多様な組織について理解を深め、複雑な状況でも判断力と問題解決能力を提供します。統合報告書の保証は、会計士の将来の役割における重要な要素であり、企業報告書の財務情報だけでなく、企業の価値創造に関連するその他の情報に専門的な知識を適用し、最終的にビジネスの回復力とサステナビリティに対する信頼性を向上させるキャリアパスを可能にします。

企業報告のグローバルな基準設定に関しては、統合報告の保証およびサステナビリティ情報の比較可能性や一貫性を推進するため、迅速に進展させる必要があります。この目的に向けて IFRS 財団トラスティが、「サステナビリティ報告における国際的な一貫性と比較可能性向上への緊急かつ高まる需要」に注目し、Sustainability Standards Board の設立を検討するためのタイムラインを設定したことは心強いことです。私たちはこのように着々と前進を続けている IFRS 財団をしっかり支援しています。

保証機関にとって、国際保証業務基準 (ISAE) 3000 (改訂版)、「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」は、高品質の統合保証業務を提供するための基本的な国際標準です。

[国際監査・保証基準審議会 \(IAASB\) では](#)、ISAE 3000 の適用を支援のため、拡張された外部報告 (EER) 保証に関する追加指針を近日リリースします。統合報告は EER の一例であり、EER ガイダンスは統合報告の保証を前進させるための出発点です。

統合報告保証の加速化に関する今回の第 1 回目の記事では、統合報告の保証の重要性およびその性質、現在のトレンド、機会と課題、および統合報告の特徴やユニークさに対応できる合理的な保証をどのように発展すべきかについて説明しています。

とりわけ、合理的保証の業務契約へ移行する際には、価値創造プロセスを構成する統合報告やその他の主要な事業プロセスを含んだ統合報告書のエビデンスや保証手続きが必要であるため、より深い理解とガイダンスが必要になります。

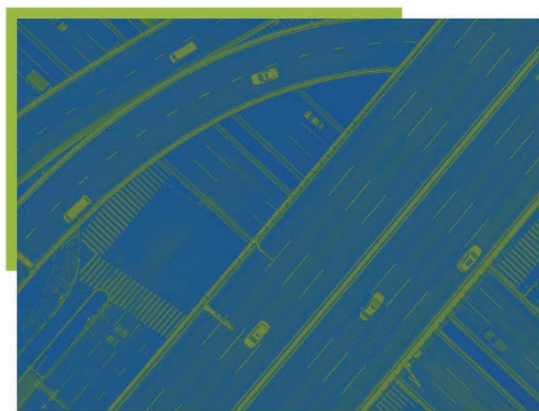
統合報告の保証実現へのさらなる支援実施において、報告書に記載されている私たちの考え方に対し、特に以下の点に関して皆様からのフィードバックを歓迎しています。

- 統合報告保証の性質、ならびに合理的保証を提供する統合報告保証業務の範囲と程度
- 保証事業者にとって、追加のガイダンスが有用な分野
- 統合報告保証を進めるためのさまざまな機会と課題

INTEGRATED REPORTING <IR>

統合思考の実践

新しいケーススタディ



「統合報告ビジネスネットワーク」の Integrated Thinking & Strategy Group（統合思考・戦略グループ）は、統合思考の定義や統合思考を組織に浸透させる方法について気づきや理解を促すうえで役立つ、最新ケーススタディを公開しました。

この最新ケーススタディには、世界的な化学メーカーの [Solvay](#)、オランダ空港管理会社である [Royal Schiphol Group](#)、エネルギーインフラ運営企業の [Snam](#)、および銀行・金融サービス会社の [ING Group](#) が含まれ、今後数ヶ月以内にさらに公開数を増やす予定です。

各ケーススタディでは、多様な業界の国際的企業に統合思考がどのように組み込まれているかを検証しています。主要ステークホルダーへのインタビューでは、統合思考を採用した企業のさまざまな動機や、統合思考が戦略立案と展開にどう役立ったか、採用によりどんなメリットを享受できたかを特定しています。

「統合報告ビジネスネットワーク」の Integrated Thinking & Strategy Group より[詳細をご覧ください](#)。



国際統合報告フレームワークはどのように更新されたか？

比較スタイルで改訂箇所を明示

2021年1月、意思決定に役立つ報告を実現するために、「国際統合報告フレームワーク」の改訂版を発表しました。この改訂は55の法域の1,470名にのぼる皆さまとの、2回にわたる広範な協議を通じて行なったものです。

そして今、2021年「統合報告フレームワーク」における旧版からの変更箇所を読者の皆さまが明確に識別できるよう、「[統合報告フレームワーク 2013/2021 比較資料](#)」を発行しました。同資料では表形式で新旧の比較を表示し、変更について概説しています。



INTEGRATED
REPORTING <IR>

オンライン配信を
開始

「IIRC グローバル
カンファレンス 2020」

「IIRC グローバルカンファレンス 2020」の録画が[オンラインで視聴](#)できるようになりました。

同カンファレンスの豊富な内容にキャッチアップ

- 40ヶ国以上100人超の、国際市場のリーダーたちによる統合報告の過去・未来に関する洞察を提供

- SASB との統合に踏み切った IIRC の意図、および包括的な報告システムに関する最新計画
- 危機管理、気候リスク管理、SDGs の達成、統合を支援するテクノロジーの活用など、重要トピックを網羅したディスカッションと実践的ワークショップ



[Website](#) [Twitter](#) [LinkedIn](#) [YouTube](#)

Contact: juliet.markham@theiirc.org

Copyright © 2021 International Integrated Reporting Council, All rights reserved.